

毒の花

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

春から秋にかけて、空き地には雑草に交じり綺麗な花を咲かせる草が生えてきます。これも雑草には違いないのですが、オレンジ色の花が沢山咲いていると、摘んで帰って部屋に飾りたくなります。でも、それは絶対にダメ！危険です。

この花は「ナガミヒナゲシ」という名の草で、地中海のギリシャ近辺が原産地とされていますが、繁殖力が強く、アツという間にヨーロッパ全土に。さらにはアメリカ大陸、アジアにまで広がりました。しかし、私が子供のころには見たことのない花なので、日本に広まったのはこの20～30年の間ではないかと思えます。

写真のように一株から複数の花が咲き、株全体で3000個近い種をつけるとされています。そのいくつかでも風に流されて他の場所にたどり着けば、そこでまた他の雑草を押しつけて花を咲かせます。私も会社と家の近くしかチェックしていませんが、おそらく北海道から九州、沖縄まで、全国に広がっているものと思います。

この花はケシ科の草で、ケシと言えば麻薬のモルヒネの原料。この草にも同様の成分が含まれていて猛毒です。イギリスでは空き地に群がって咲いているこの花を見つけた子供が、綺麗だから花束にして母親にプレゼントしようと何十本も摘み取り、摘んだ後に指を舐めたところその場に倒れて意識不明に。救急車で病院に搬送されましたが、原因がわからず、死に至ったということです。

報告を受けたイギリス政府は直ちに各市町村にこの花の除去を命じたと言われていますが、日本では国も地方自治体も、この毒の花の存在すら知らない……知っているのかも知れませんが、日本は何かあってからでないと行政は動かない国なので、どこかで入院するような事態が起こるまでは、ほったらかしでしょう。

国がこのような姿勢である以上、私たちとしては自身や家族の身を守るには自ら注意するしかありません。特に子供たちにはこの花を見つけても触ったり摘んだりしないこと。触ってしまったら、よく手を洗うように忠告することを教えなくてはなりません。

今のところ、まだ日本国内で被害が出たという報道がないところを見ると、もしかして日本に渡ってくる間に変異して毒性が弱くなった可能性もあるのかも知れませんが、毒性が消えることはまずないので、注意するに越したことはありません。

